

# この党なら安心



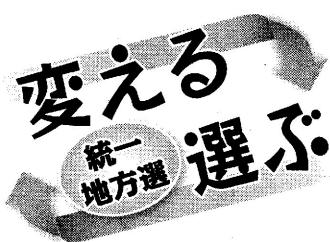
神奈川県 内藤花恵さん(23)

「祖父の暴力や暴言に自尊心を奪われていた」。内藤花恵さん(23)＝神奈川県相模原市＝は家父長制やジェンダーについて学ぶように、祖父の行動の背景に社会の構造的問題があると気づきました。綱領でジェンダー平等を掲げ、女性の権利を訴えつづけてきた日本共産党に「Nの党なら安心できる」と笑顔を浮かべます。

(小林圭子)

「ジェンダー平等や気候危機など自分が社会課題だと考えるものを、自分と同じ熱量で共有してくっています」と、共産党について話します。

## 家父長的構造 自尊心奪われた



### 勇気をもらつた

日本共産党から市議選に立候補する同県藤沢市の、かとうあやのさんと出合い、政治家に親近感を持つように。「子どもを育てながらも市民の代表として声を届け、社会を変えていこうとしている人がいるんだと分かった。勇気をもらつた」

5歳のとき、母親を亡くし、祖父母に育てられました。祖父は暴力や暴言で家族を支配していました。祖母は抵抗できず、がんを患いながらも内藤さんを懸命に育

てました。社会人になり、考え方を主張できない、仕事が思うようにできない自身を否定し、心を病んでいました。カウンセリングを受け、幼少期の体験に原因があったと気づきました。

「祖父は絶対的に悪いけど、祖父という存在をつくったのは、社会の構造や政治の問題だと分かった。祖父個人を責めるのではなく、そのパワーを社会を変える方に向けていこうと思った」

日本民主青年同盟や新日本婦人の会などに入り、積極的に活動や勉強をしています。女性の権利だけでなく、すべての人間が守られることが大事だと、外国人の移住者と同じぐらいの熱量でしつかり自分の思いを訴えたい。できるかぎりのことを精いっぱいやっています。

「どんな見た目や性質ボランティアに取り組みます。SNSでの発信や選挙

分の存在を否定する「生きていける社会でなければならない」とまっすぐに語ります。

### 声を上げていく